▲　智之さん・美穂さん、ご結婚おめでとうございます（3月4日）

慧光

金光寺寺報
第２０１号
発行所　金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
５９２７番地
☎　０９８２
８３－２３３８

今月法語カレンダーのことば

本願（ほんがん）をききて　疑（うたが）う心（こころ）なきを　聞（もん）というなり

親鸞聖人（しんらんしょうにん）の『一念多念文意（いちねんたねんもんい）』から、念仏往生の誓願である第十八願が成就（じょうじゅ）した、第十八願成就文（じょうじゅもん）を解釈された一文です。「如来の本願を聞いて、疑う心がないのを、『聞（もん）』というのである」と、阿弥陀さまの根本の誓願の救いを疑いなく、二心（ふたごころ）なく聞く、「聞」の大切さを示されました。

聖人は、本願を聞くということを「聞名（もんみょう）」として解釈されて、〈「聞（もん）」といふは如来のちかひの御（み）なを信ずと申すなり。〉と、「聞」を解釈されるのに名号（みょうごう）を信ずるという「信」をもって示されます。これは、第十八願成就文の「聞（もん）其名号（ごみょうごう）」のご解釈と同じです。「名号」を「聞く」ということが「信心」であるということは、浄土真宗の信心の特質です。

古来、「聞名」に三種の意義があるといわれます。一つには、名号を聞信（もんしん）するという凡夫（ぼんぶ）に相応の「信」であるということ。二つには、「聞名」は「称名（しょうみょう）」に対する言葉で、聞名による真実信心は、私たちの称名の「行」に先立ち信前行後（しんぜんぎょうご）といわれます。逆に第十七願によって讃嘆（さんだん）された「称名」を聞くという次第からすると、行が信に先立つこととなります。称名が称えものでありながら聞きものであるといわれる由縁（ゆえん）です。三つには、「聞名」が凡夫自力の信心ではなく、名号のはたらきによって信心が発起（ほっき）するという如実（にょじつ）の信をあらわしています。

このように、本願に誓われた名号を念仏して助けてもらうのではなく、助かってくれと拝まれている阿弥陀さまの御名（みな）を「聞名」し信心を獲（う）るのが、本願の救いの要（かなめ）であります。

（本願寺出版社刊「大乗」誌掲載
『月々のことば』より抜粋　転載）

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

◎　３月

１６日（金）　午　後
２１日（水）　午前中
２９日（木）　終　日

◎　６月

１日（金）～　２日（土）
２３日（土）～２４日（日）

２月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

２０１８年	２月　１日	満７８歳	
荻　原	矢　野	敏　雄	様
２０１８年	２月　２日	満８６歳	
芋の八重	甲　斐	ニキ子	様
２０１８年	２月１０日	満７５歳	
宮崎市	黒　木	要　蔵	様
２０１８年	２月２４日	満６７歳	
大石の内	鮎　川	博　子	様

ホームページ開いています。
ＵＲＬ　http://konkouji.jp/
３月８日現在　アクセス数　８１，１２２人

仏教用語豆辞典

利（り）益（やく）

「利益」―あなたはこの字を何と読みますか。

「リエキ」と読む場合は、経済的な利得、もうけ、とくを意味します。

「リヤク」と読めば、神仏の力によって授かる幸福のことで、いわゆる「ご利益」です。

『仏教語源散歩』に面白い話が載っていました。

「A君は就職試験の合格を祈った。残念ながらめざす会社は不合格で、やむなく第二志望の会社に入社する。ご利益はなかった。しかし、A君はその会社で実力を発揮し、充実した生活を送った。」

「B氏はギャンブルの勝利を祈る。その結果、大勝して大金を手中にした。ご利益はあったか。しかしそのため、勤労意欲を失い、酒におぼれて健康を害し、悲惨な生活を送った。」

いったい、ご利益とは何でしょうかね。

本当の利益を『現世利益和讃』はいいます。

南無阿弥陀仏（なもあみだぶつ）をとなふれば
この世の利益（りやく）きはもなし
流転輪廻（るてんりんね）のつみきえて
定業中夭（じょうごうちゅうよう）のぞこりぬ

（本願寺出版社発行
辻本順著敬
「仏教用語豆辞典一〇〇
ＰＡＲＴⅡ」から）

住職ひとりごと

大雪や春一番の強風の影響で境内地が桜や境内地の木々の枝が折れて落下したり、落ち葉が一面に広がったりしてすごく汚れていました。寒がゆるんだこともあり、息子と境内地の掃除を行ったところ、一月の水分を含んだ雪のすごかったことに気付きました。幹回り十センチほどの枝が何本も折れていました。人棚では倉庫が雪で押しつぶされてもいました。驚いたことでした。▼閑話休題。三月四日、荒谷白瀧徹哉さんのご子息智之さんと河合美穂さんの仏前結婚式のご縁をつとめました。智之さんがお兄さんの仏前結婚式に感激して「私も仏前で結婚式を」と仏前結婚式を選ばれたようです。ところで、厳粛に式は進行したのですが、結婚式に同席の幼児の中のお一人が式杯に使用した赤の用具にすごく興味を示されました。開式前から用具に近づいては触ろうとします。親御さんがあわてて息子さんを抱きかかえて指定席に連れて行かれます。式が始まってもそんな行為が数度見られました。ハラハラしましたが、ほほえましく見させていただきました。

（住職　松井卓郎）